

# 校長室だより 春日 (しゅんじつ)

校長 清武 直人

## 赤ちゃんの時

「スマイレの花のようにみんなに親しまれる子になってね。」  
 「夢に向かって大きく羽ばたく子になりま  
 すように。」  
 「たくさんの人に愛される子になってね。」

2年生の教室で見つけました。子ども  
 たちが自分が赤ちゃんの頃のお話を家族に聞  
 いてまとめた作文です。

その中には、自分の名前の由来や自分が  
 生まれた時の家族の喜びが記されていまし  
 た。

「ねえねえ、お母さん。どうして私の名前  
 を“すみれ”っていう名前にしたの？」  
 「ねえねえ、お父さん……」

親子の微笑ましい会話が聞こえてきそう  
 です。子どもたちが書いた作文を読みなが  
 ら、私もずっと昔に親から聞いた、自分が  
 赤ちゃんだった時の話を思い出しました。

## 私が赤ちゃんの時

昭和30年、春日市の千歳町で生まれま  
 した。早産で、8ヶ月で母のお腹から出  
 てきたそうです。せっちな性格は、すでに  
 このときから見え始めていたようです。

2ヶ月も早くこの世に出てきた私は、体  
 が弱く、口にもものを入れるとすぐにお腹を  
 くだし、医者に食事制限をされていたそう  
 です。ですから体はみるみる痩せていき、  
 両親はこのまま死ぬのを待つしかないのか  
 と思ったそうです。

そんな時、祖母が「どうせ死ぬなら食  
 いたいものを腹一杯食わせてやれ」と言  
 ったその一言で、とにかく食べさせること  
 にしたそうです。

それからは、食べてはくだし、食べては  
 くだしの繰り返しだったそうですが、それ  
 でも食べたおかげで体力がつき、命を取り  
 戻したということです。祖母は、私の命の  
 恩人のようなものです。

名前は、「素直な人になれ」という願  
 いを込めて「直人」と付けたそうです。

親の期待通りに育たず、申し訳なく思  
 っています。



## 心配事の9割は 起こらない

本屋さんに行って本のタイトルを眺め  
 ただけでも結構ためになります。今回目  
 にとまったのはこれです。

「心配事の9割は起こらない」

なるほどと唸ってしまいました。なんと  
 心を楽にする言葉でしょう。

滅多にないことですが、夜奥さんがお  
 友達とお出かけして少し帰りが遅くな  
 ると、「何かあったに違いない」「交通事  
 故にでも遭ってなければいいが……」  
 思いは悪い方へ悪い方へと向かってい  
 きます。  
 「きっと楽しくて盛り上がっているんだ  
 ろうなあ」「幸せなやつだなあ」なんて  
 絶対に思わないのが人間の心です。

そんな時「心配事の9割は起こらない」  
 という言葉を掴んでさえいれば、奥さん  
 の帰りがいくら遅くても安らかに床につ  
 くことができるのです。

「でも、1割は起こるんでしょう。」  
 なんて絶対に思わないことです(ToT)

ダイジョウブ!!!  
 ダイジョウブ!!!



